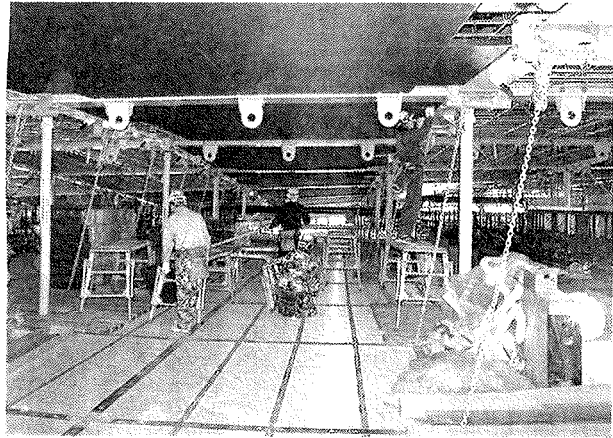


日建片桐 つり足場「クイックデッキ」



クイックデッキを用いて天井仕上げ材を施工している

【函館】日建片桐リース(本社・札幌)がレンタル展開するつり足場「クイックデッキ」が、函館アリーナ建設現場で活躍している。メインアリーナの空間天井仕上げ用足場として上弦・下弦材の中間、高さ約15mに設置。上下で同時施工できるメリットに加え、安定性の高さから作業者の安全にも大きく寄与している。

米国のセーフウェイ社が開発したものを日綜産業(本社・東京)が一部改良。手すりや支柱をはじめ、孫梁やアルミ製の床板、L形幅木など独自の技術を組み込んだ。日建片桐リースが道内代理店を務めている。

4月27日、佐藤工業・小泉建設共同体が施工する主体その他の現場で作業状況を公開。ここでは3月下旬に約700平方メートルを納入しており、6回に分けて水平旋回しながら

上下同時施工で工程短縮 函館アリーナ建設現場で活躍

道内では網走市民健康プール改築に続き2例目で、アリーナ建築では全国初の事例。この現場では組み立て面に5m間隔で束材があるため、売りの一つである数スパンの床を同時に組むことで

道内では網走市民健康プール改築に続き2例目で、アリーナ建築では全国初の事例。この現場では組み立て面に5m間隔で束材があるため、売りの一つである数スパンの床を同時に組むことで

きないが、上下で工事が進められることによる工程の短縮が採用の決め手となった。

足場には隙間がなく、作業者に高さを感じさせない安定感があり、曲面になっている部分では、足場上で立ち馬を用いて施工。広いスペースに資材も置き、効率化が図られている様子だった。

同作業所の若林勉所長は工程の短縮効果に加え、安定感に伴う作業者の安全確保に大きなメリットを感じている。「立ち馬を使えるのも安定感があるからこそ。作業自体も本来なら3カ月かかるところを2カ月ほどで終わる。大空間の仕上げには有利」と話している。

クイックデッキは、国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)に申請中。日建片桐リースでは、大空間の仕上げのほか、今後は橋梁の改修などにも採用を働き掛ける考えだ。

北海道建設新聞

発行所
北海道建設新聞社
〒060-0004 札幌市中央区
北4条西19丁目1番地11
TEL (011)611-6311
FAX (011)621-2913

旭川支社	(0166)	26-2541
小樽支社	(0144)	33-0161
苫小牧支社	(0155)	22-0401
函館支社	(0138)	52-3870
釧路支社	(0154)	41-3832
空知支社	(0126)	25-2444
釧路支社	(0134)	33-0866
小樽支社	(0157)	23-4666
北見支社	(0143)	24-5188
室蘭支社	(0164)	42-2443
留萌支社	(0162)	73-1830
網走支社	(0152)	44-2675

©北海道建設新聞社2015

5月11日

2015年
(平成27年)

月曜日

第18341号(日刊)

土、日曜・祝日は休刊

Metal & Technology

鉄鋼新聞

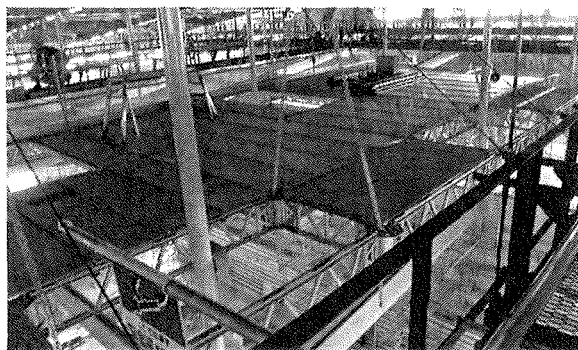
日建片桐
スリ

日綜産業の新型吊り足場

函館アリーナ新築工事で採用

日建片桐リース(本社・札幌市、社長・片桐大氏)はこのほど、函館市で建設中の函館アリーナ建築工事で、日綜産業(本社・東京都、社長・小野大氏)の新型システム吊り足場「クイックデッキ」を天井部分の仕上げ用足場として700平方メートル採用した。今回の採用はアリーナ建築では全国初、北海道では今年1月の網走市プール(450平方メートル)に続く第2号目となった。今回のクイックデッキ採用では、雪国仕様としてアルミ製の床板を野や用途への浸透を防ぐ方針だ。また、このデッキは、従来品に比べて高い機能性や先進性などオリジナル製品

が持つ基本構造の優位性はそのままだに、作業員がより安全に安心して作業できるように日本仕様として一部を改良。"3Sシステム"の機能を付加した手すりや支柱、床板のたわみを防止する孫梁やアルミ製の床板、オリジナルI型幅木などの独自技術を組み入れた日綜モデルとして昨年6月から販売・レンタルを開始。以来、当所計画を大きく上回る好調な出足をみせており、最近の建設現場で問題となっており、建設現場で問題となっている建設者不足に、発注者の評価が高め、発注者の評価が高



施工中のクイックデッキ

な出足をみせており、最近の建設現場で問題となっており、建設現場で問題となっている建設者不足に、発注者の評価が高め、発注者の評価が高

・NETISに登録申請中だ。

クイックデッキのこれまでの納入・稼働中の現場は30件で、計画は100件を超えている。内訳は大型ショッキングモールや航空機組立工場新築工事の天井工事、精密機械工場の天井改修、新幹線高架の改修工事など多岐にわたる。特に天井改修工事用の足場としては工場を稼働させながら改修工事ができるため、発注者の評価が高い。

なお、函館アリーナ新築工事は、敷地面積2万3665平方メートル、鉄筋コンクリート

造3階建て一部鉄骨造で、延べ床面積1万5693平方メートル。バスケットボールのフルコート3面を確保できる収容人数5千人のメインアリーナと、収容人数936人の武道館などが配置されるサブアリーナ、両アリーナを結ぶ玄関ホールなどからなる。工事は13年9月に始まり、完成が今年7月末の予定。使用された鋼材の合計は、鉄筋が1525ト、鉄骨2350ト。